

9月 HUG だより

情報提供者 HUG スタッフ

9月のテーマ：誤飲（ごいん）

誤飲（ごいん）と誤嚥（ごえん）

こんにちは。今月の HUG だよりは「誤飲」についてです。

誤飲とは、本来飲み込まないものを間違えて飲んでしまうことです。そして、食べ物が空気の通り道に入ってしまうことを誤嚥といいます。こどもの死亡事故の中には不慮の事故が多く、誤飲はその不慮の事故の一つです。

子どもは好奇心旺盛ですので、家の中であちこち走り回っています。「子どもから絶対に目を離さない」ことは正直いって不可能です。誤飲対策で重要なのは、目を離してもすぐには事故に繋がりにくくすることです。例えば、置き場を工夫したり、誤飲の危険があるおもちゃを避けたりする等して、誤飲事故が起こりにくい環境を作り、誤飲を未然に防いでいきましょう。

子どもの誤飲の多いもの

《包装フィルム、シールなどの誤飲》

お菓子やペットボトルの包装フィルムを口に入れたり、かじったりしていると破片を誤飲・誤嚥して、窒息することがあります。年上の子どもの遊んでいるシール、パッケージについているシールなども同様です。包装フィルムやシールがついている物、容器などで遊ばせないようにしましょう。

《医薬品、洗剤、化粧品などの誤飲》

医薬品や洗剤などの誤飲は重大な症状を引き起こすおそれがあります。医療品、食品と見た目が似ている洗剤や化粧品、入浴剤などは、子どもの目に触れない場所や、手の届かない場所に保管しましょう。



《たばこ、お酒などの誤飲》

たばこやお酒の誤飲は、ひどい中毒症状がでることがあります。たばこやお酒は、子どもの目に触れない場所や、手の届かない場所に保管しましょう。

《ボタン電池、吸水ボール、磁石などの誤飲》



ボタン電池：ボタン電池の誤飲は、食道に詰まったり胃の中にとどまったりすると重症事故につながります。ボタン電池を利用している器具は、電池が取り出せないようカバーを固定しておきましょう。吸水ボール：樹脂製の吸水ボール（水を吸って膨らむボール）の誤飲により、腸閉塞などを起こすことがあります。磁石：複数の磁石の誤飲は、磁石が腸壁を挟んでくっつき消化管に穴があいたり、腸閉塞などを起こすおそれがあります。これらの物は子どもの目に触れない場所や、手の届かない場所に保管しましょう。

《食事中に食べ物で窒息》

①パン、カステラ、こんにゃく、キノコ類、海藻類、ゆで卵、肉料理などは、1 cm大程度まで小さくして与えましょう。②球形の食品（プチトマト、ブドウなどの果物、飴、チーズ、うずらの卵など）は、吸い込みにより窒息の原因となります。4等分にして、ブドウなどの皮は除去してから与えましょう。



③いか、エビ、貝など噛み切りにくい食材は0, 1歳児には与えないようにしましょう。器官・気管支に入りやすい豆・ナッツ類は、5歳以下の子どもには食べさせないようにしましょう。④食品を口に入れたまま遊んだり、話したり、寝転んだりさせないようにしましょう。また、泣いている子どもをあやそうとして、食品を食べさせるのはやめましょう。

《おもちゃなど小さな物で窒息》

年上の子どものおもちゃには、小さな部品が含まれていることがあります。対象年齢になるまでは、子どもの手の届かないところに保管し、遊ばせないようにしましょう。また、おもちゃの購入時や利用時は商品の対象年齢を必ず守りましょう。

もし、子どもが誤飲してしまったときは

もし、子どもが誤飲したときは、次の項目を医師に伝えてください。また、**同じものがあれば持参して**ください。

- 誤飲したもの ●個数 ●場所 ●時間 ●応急処置の有無
- 応急処置の内容 ●嘔吐や腹痛などの症状はないか

誤飲を防ぐためのポイント



子どもの口の大きさ

・誤飲するサイズ（**39mm 以下**） 3歳以上の子どもでは、口の大きさから4 cm以上の物はいらないとされています。（大人が指で作る丸やペーパー芯と同じ）

・小さい生活用品は手の届かない高さに（**1m 以上**）

・異物を口に入れているのを発見したときは**大声をださない** 異物を口にいられているのを発見したときは、大声をだして慌てたり叱ってしまうと子供がびっくりしたり泣き出して吞

み込んでしまうことがあるので、慌てず優しく口からださせる。

「もしも」の時にそなえて、対処法の知識や方法を調べておくことも大切です。

今回は、『子どもを事故から守る 事故防止ハンドブック』消費者庁編を参考に紹介しました。